

# 壺屋の作陶映像発見

## 米公文書館 1950年代に撮影か

【東京】沖縄の民芸を撮影したフィルムの修復・デジタル化を進めるカナダ人の映像作家マーティ・グロスさん(70)が、壺屋焼の作陶風景を映した16ミリフィルム映像(36分間)を米国立公文書館で発見した。那覇市壺屋を現地調査した米軍が撮影したとみられ、グロ

スさんは「未公開の映像が撮られた時期は1950年代ではないか」と話す。

グロスさんは22日から沖縄を訪れ、壺屋焼の関係者や学識経験者と面会し、映像につながる手掛かりを集めたい考え。

フィルムは白黒で、今年2〜3月に発見。複数の壺

屋の陶工が登場し、ろくろを回したり、登り窯で焼い



発見した未公開映像を見せながら「関係者から情報収集したい」と話すマーティ・グロスさん。19日、沖縄タイムス東京支社

たりする制作過程などが収められている。

「陶工が誰なのか分からないが、映像に映っている本人に会い、インタビューしたい」と望むグロスさん。これまでに戦前沖縄の民芸の映像を作品化してきた。

「戦後も含めて焼き物文化が歩んだ足跡を記録に残したい」と語った。

問い合わせは、民藝運動フィルムアーカイブ制作委員会、電話090(9330)0035。